

中山間地域等における交通弱者対策を通じた生活環境の改善可能性に関する研究

地域政策学部 教授 佐藤 彰彦

研究成果

本研究は、中山間地域等における住民が加齢や地理的不利によって科せられる負担を交通政策を通じて改善し、当該地域の生活環境ならびに住民の QOL 等の向上等に資する方策の可能性を探ることを目的に学生有志とともに取り組んだ。

本研究では、「地域生活交通」を「外からのアプローチ」「外へのアプローチ」という2つの観点からとらえ、それぞれ「移動販売」型のサービスと「オンデマンド」型の公共交通手段に着目した。研究の成果は、主要な駅や公共施設等を繋ぐ主要ルートの末端延長部に、先の2つを組み合わせた地域内の拠点——人びとが集まる生活交流拠点——を再整備することにより、新たなコミュニティの創出、ならびに、生活ニーズに対応した生活交通の充実をはかるという提案である。商業施設、病院、集会所など既存の交流施設に「外から／外へのアプローチ」を加味し再編することで、既存の社会資本を効果的に活用し、地域社会の QOL 向上に繋げるものである。